

【No. 1】 工事監理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 工事監理とは、施主の立場に立って、工事が設計図書の通りに実施されているかどうかを確認する業務である
2. 工事監理業務では、施工者の技術的能力、経験等について、判断を行う
3. 工事監理において、工期、支払い条件などを発注者と協議する
4. 工事監理において、注文者の要請などで、施工者が作成するVE提案内容を検討する

答. 2

【No. 2】 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 施工者は、品質を確保するために、自らの責任で品質管理を行う
2. バーチャート工程表は、各作業の所要日数と施工日数がわかりやすいが、各作業の工期に対する影響度の把握が難しい
3. 原価管理は、実行予算を立て、適切に運営する経済性の管理である
4. 一般的な建設業における労働災害は、全産業の約 40%を占めており、増加傾向にある

答. 4

【No. 3】 積算の数量に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 公共建築数量積算基準において、数量とは原則として設計数量をいう
2. 歩掛りとは、使用した素材量に対し、実際それから作られた製品量の割合のことである
3. 一ヶ所あたり 0.5 m²以下の開口部による、主仕上げの欠損は原則としてないものとする
4. VEとはヴァリューエンジニアリングの略で、要求される機能を下げずにコストダウンを図ることである

答. 2

【No. 4】 商業施設の施工契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 一式請負とは、設計と施工を同一の会社が請負う方式である
2. 分割請負方式とは、専門技術を要する工事や内装工事など専門業者が個別に請負う方式である
3. 共同請負方式とは、複数の請負者が特定の工事の完成だけを目的とした臨時の企業体を編成して、連帯して請け負う方式である
4. コストオン方式とは、個別に選定した各設備会社などの工事現場管理費を加算した金額で、建設会社と契約する方式である

答. 1

【No. 5】 監理・施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商業施設の制作施工は、プロジェクト毎に工場または現場においてつくり上げる一品受注生産である
2. 法定福利費は、主に社会保険未加入対策として、内訳を明示した見積書の作成を推進している
3. 工事契約で諾成契約は契約書を必要としないが、トラブルを避けるため、書面化することが重要である
4. 発注者の商業施設の投資計画は、ランニングコストにより投資の効果的運用が検討される

答. 4

【No. 6】 仮設工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 「現寸型板」とは、複雑な制作物をつくるために、その輪郭などを合板、金属板などで現寸で型をつくることである

2. 「養生」とは、貸与スペース（床・壁など）および完成品を保護するために行う行為である
3. 「引き渡しクリーニング」とは、引き渡し後に定期的に行うクリーニングのことである
4. 「墨だし」とは、建築躯体などの床や壁面に仕上げの基準となる鉛直・水平線などを表示する作業をいう

答. 3

【No. 7】 防水工事における下地処理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シート防水の平面での入隅の処理を直角に加工した
2. シート防水の立上り部の出隅の処理を面取り加工とした
3. アスファルト防水の立上り部の入隅の処理を直角に加工した
4. アスファルト工法での平面での出隅の処理を面取り加工とした

答. 3

【No. 8】 れんが積み工法の名称に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フランス積み
2. イギリス積み
3. オランダ積み
4. スペイン積み

答. 4

【No. 9】 金属工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 天井下地組工事において、天井のふところが 2.1m であったので、振れ止め補強は行わなかった
2. 炭素鋼は鉄を主な成分とし、炭素の量により使用部位が変わるが、鉄筋や鋼管、溶融亜鉛めっき鋼板等に使用される
3. ステンレスは比較的耐食性の高い金属であるが、不適當な使用をすれば錆びる場合がある
4. 天井鋼製下地として、溶亜鉛めっき鋼板またはステンレスを使用した

答. 1

【No.10】 建築材料の環境配慮に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 省エネルギーの観点から、断熱材の仕様や選定、開口部のガラスの熱還流率の低いものや、日射熱取得率の低いものを選定することが重要である
2. 建築材料や設備機器には、地球温暖化ガスが含まれている恐れがある
3. 保水性や透水性が高い材料や日射反射率が小さい材料を用いることはヒートアイランド制御になる
4. 木材について、持続可能な森林から算出された木材の使用は、再生可能な材料の使用であるといえる

答. 3

【No.11】 材料の防火・耐火性能に関する次の記述のうち、**最も適當なもの**はどれか。

1. 繊維混入けい酸カルシウム版を鉄骨柱に厚さ 25 mm で巻くことで 1 時間耐火となる
2. 防災処理は、カーテン、どん帳、じゅうたんなど、火がつくと急激に燃え上がることを防止する目的で、建築基準法の内装制限に規定される
3. ポリカーボネート板は自己消火性を有しており、準不燃材料である
4. 準不燃材料とは、加熱開始後 20 分間は燃焼したり変形したりせず、また

避難上有害なガスや煙が発生しない材料である

答. 1

【No.12】 防火設備として使用する各種ガラスに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 網入りガラス
2. 低膨張ガラス
3. 熱線吸収ガラス
4. 耐熱強化ガラス

答. 3

【No.13】 断熱材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 熱伝導率が 0.1 以下の性能を有する
2. 水分を含むと断熱性能が低下する
3. グラスウールは断熱材であるが、不燃材料でもある
4. 材料中に含まれる空気の対流によって断熱効果を得ている

答. 4

【No.14】 建材の一般的な呼称と名称との関係に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 吹付タイル ・ ・ ・ セメント砂壁吹付け
2. トタン ・ ・ ・ ・ ・ 亜鉛鉄板
3. 軽石 ・ ・ ・ ・ ・ 凝灰岩

4. 赤レンガ 耐火レンガ

答. 2

【No.15】 次の文章の、 に入る語句として、最も適当なものはどれか。

『土地、建物、構築物、設備等の業務用不動産すべてを経営にとってコストを最小、効果を最大にする状態で保有、賃借、使用、運営、維持するために行う総合的な経営活動のことを と呼ぶ。』

1. コンストラクションマネジメント
2. プロパティマネジメント
3. プロジェクトマネジメント
4. ファシリティマネジメント

答. 4